

「教職員の学び合いを促進するためのヒント・事例集 vol.3」

～ 共に学び合う職場をめざして ～

はじめに

■ 県立総合教育センターでは、平成26、27年度の調査研究において、研究協力校8校に学び合いに関する聞き取り調査を実施し、28の学び合い事例を収集しました。この28の事例を分析し、学び合いが発生するメカニズムをイメージ化したものが右図です。

■ 平成28年度は県立学校人事課の「質の高い学校教育の推進に係る事業」において、東京大学大学院と連携し、各学校の研修会に参加し事例を収集しました。また、県教育局が実施する「共生社会の形成に向けた特別支援教育推進事業」や「未来を拓く『学び』プロジェクト」からも事例を取り上げました。

■ 大量退職、大量採用の時代を迎え、経験豊富な教職員の技術や知見の若手教員への伝達は、一つの課題になっています。また、現場の多忙感もあいまって、教職員同士が、気軽に話し合ったり相談し合える環境がなくなりつつあるのが現状です。しかし、訪問校では、**コミュニケーションの場**となる研修会を設定して、学び合いを促進し、**学び合う土壌**を育む学校風土の醸成につなげていく試みがなされていました。さらに、学校の枠を越えた研修会が数多く実施され、**学校間の学び合い**もますます盛んになっています。



【学び合いが発生するメカニズム】

※「仲間」とは、学び合いの契機をつくる教職員を示す

※「レリバンス」とは、自分の教育実践や専門性と関連のある内容、自分が必要性や重要性を感じる妥当性のある内容のこと

学び合いの場をつくる～研修会という仕掛け～

「質の高い学校教育の推進に係る事業」研修会は、他校の教職員が参加できる研修会です。そこでは、学校という枠を越えた教職員の「学び合い」が可能で、各校が、研修会を開催するに当たり、自校だけでなく、他校の教職員まで参加者を広げることにより、大きな学び合いの可能性が開けてきました。

(1) 研修会を学び合いの契機にして、学び合う土壌の醸成へ



- 研修会を設定して、コミュニケーションの場を作ります。そこでは、できるだけ協議や話し合いの時間を設けて、自由な対話を促します。
- 研修会で会話を重ねることにより、心理的な壁をなくして、職員室での平素の会話につなげていきます。
- 教職員間での意思疎通が円滑になることにより、相談しやすい雰囲気生まれ、学び合う土壌が形成されていきます。

(2) 学校間の学び合いへ



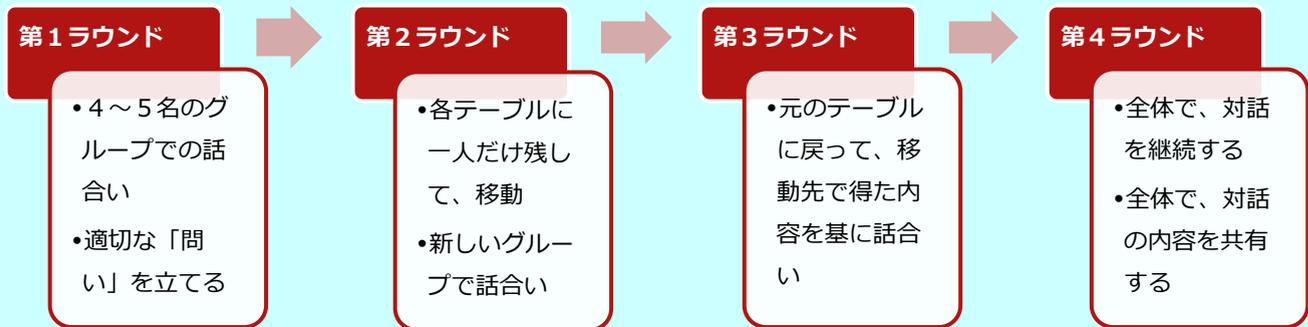
- 他校の研修会に参加した教職員は、刺激を受けるとともに、視野を広げ自己のスキルを向上させることができます。
- 他校の教職員との人的交流により情報の共有が進みます。
- 他校の取組や成果を自校の教育活動の参考にすることができます。
- 他校からの参加を得ることで、自校の研修会も活性化されます。

研修会の形式

今年度、各学校の研修会で多く取り入れられていたのが、ワールドカフェ方式です。比較的、新しい方式ですが、企業等でも盛んに行われているものです。全員が関わり、対話が成立する形式が学び合いを促進します。また、それ以外にも、各学校において工夫を凝らした研修会の実施が見られました。

【ワールドカフェ方式】

教員間の学び合いに有効なものとして、注目されているのが、ワールドカフェ方式です。今年度の訪問の中でも、多くの研修会で取り入れられ、活発で白熱した話し合いがみられました。標準的な手順は次のとおりです。



(※上図は『ワールド・カフェをやろう!』香取一昭・大川恒 著 P.59を参考に作成)

※一般的なワールドカフェ方式では最初にルールを決めます。以下に例を挙げます。

- 他の意見を否定しない
- 結論を求めない
- カフェのようなリラックスした雰囲気を中心掛ける
- 参加は自主性に任せる

【ワールドカフェ方式の工夫】

ある高校では、講義の後に、講師自らファシリテーターとなり、ワールドカフェ方式での協議を実施していました。協議の後は、再び講義でまとめています。これは、本来のワールドカフェの趣旨とは異なりますが、最後に講師の話し合いのまとめが入ることにより、協議の結果が明確に示され、全体で対話の内容が共有されました。これは、ワールドカフェをうまく活用した好例です。

◎ポイント：ワールドカフェで活発な議論を促す。部分的に取り入れても有効

【ワークショップ型研修会】（ロールプレイング）

ある高校の研修会では、英語の即興プレゼンテーションのロールプレイングがありました。参加者は自校及び他校の英語教諭です。教員5人でグループを作り、はじめは、恥ずかしそうな演技をしていた教員が、途端に打ち解けて、一気になごやかな雰囲気となり、会場全体に笑顔が溢れました。ロールプレイングは心理的壁を一気に取り払う効果的な仕掛けです。さらに、この後の協議では、この試みを授業でどのように取り入れるかについて話し合いが行われました。参加者の学校の教育活動において、今後更なる展開が期待されます。

◎ポイント：ワークショップ型を用いて、全員が主体的にかかわれるようにする

【他校との共催】

特別支援学校では、学校間の連携がかなり進んでいます。ある特別支援学校では、研修会を他校と共同開催しました。全国的にも著名な講師を招いての講演会です。近隣の学校からも多数の参加者があり、総勢200名を超える研修会となりました。熱心な講義、活発な質疑応答があり、出席者の意欲が会場に満ちた印象的な研修会でした。共催のメリットを最大限活かした研修会です。

◎ポイント：他校との共催による大規模化、施設・予算の効率的な活用

【他行事との併催】

ある高校では、教職員向けの学校説明会の後に、組織マネジメントについての研修会を実施しました。民間人講師を招いて行った、ワールドカフェ形式も取り入れた研修会です。他校より、33名の参加があったのは、同時設定の妙といえます。また、ある特別支援学校では、学校間ネットワーク会議の後に、一般教職員を交えた研修会を設けています。このような、同時開催の試みは、教員の多忙化に配慮する合理的な設定です。より多くの他校からの教職員の参加を促すためにも効果的な工夫といえます。

◎ポイント：他行事との併催で、参加しやすい日程を設定し、参加者を増やす

テーマの設定

人を集める研修会には、必ず人を惹きつけるテーマが存在します。テーマの設定を工夫することにより、幅広い学校から参加者を集めることができます。ここでは、学び合いに効果的であった事例を紹介します。

【共通するテーマ】（学力向上）

多くの教職員の参加を得るためには、全員に共通するテーマを設定することです。今回の訪問でも、「学力向上」に関するテーマの研修会が多く催されました。中でも、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業については、教職員研修のテーマとして好適なものです。ある高校では、大学教授の講演で理論を学んだ後に実際に模擬授業を行い、他校を含めた多くの教職員が参加していました。また、「未来を拓く『学び』プロジェクト」も、「協調学習」を軸に、多くの教職員が関わり、授業を作り上げる絶好の学び合いです。

◎ポイント：教職員全員に共通するテーマ

【若手とベテランをつなぐテーマ】（初任者の発表会）

ある学校の研修会は、初任者3人が、事例を発表し、それに対して経験豊富な教員が意見を述べるものでした。初任者は、多くの悩みや迷いを感じています。ところが、なかなか他の教員に悩みを打ち明け辛いものです。また、周囲の教員も、自分から関わることには遠慮がちです。この試みは、初任者が悩みを打ち明け、ベテラン教員との関係づくりを加速させるうまい仕掛けです。

◎ポイント：若手とベテランの関係作り

【現場のニーズに応えたテーマ】（スクールソーシャルワーカー、合理的配慮）

「スクールソーシャルワーカー」は各教育事務所に配置されていますが、学校だけでは解決できない問題が増えている昨今、重要な役割を担っています。また、「合理的配慮」についてのテーマを設定するなど、教職員の興味を喚起し、現場のニーズに応えたテーマを設定したことが、多くの参加者を生んでいます。

◎ポイント：興味・関心を惹くテーマ設定

【教科を超えたテーマ】（「ことば」をテーマに）

ある高校では、言語や認知科学の研究者を招いて、「ことば」をテーマに研修会を実施しました。他校からも多くの参加者がありましたが、特筆すべきは、国語科の教員だけでなく、数学、社会、体育など教科を超えた参加者が大勢いたことです。「ことば」をテーマにすることは、間接的に普段のコミュニケーション力の向上もねらっているそうです。他教科の教職員も参加しやすいテーマ設定をして、教科を超えた学び合いの機会にする好例です。

◎ポイント：他教科の研修会への積極的参加

コミュニティに広げる

学校は、さまざまなコミュニティと相互に依存しあっています。学校内で終始するのではなく、さまざまなコミュニティに広げた研修会を行うことにより、学び合いが大きく広がります。

【異校種に広げた学び合い】（異校種・地域）

「教育相談について」をテーマに講義の後、ワールドカフェ方式による話し合いが実施されました。他の11高校から参加者があり、さらに近隣の小学校や中学校からも校長や教員が参加しました。研修会では、小学校の校長から積極的な質問があり、また他校の初任者の参加も多く、充実した研修会になりました。この地域では、普段から、小・中・高の連絡が密にあり、地域を軸に学び合う風土が醸成されています。

◎ポイント：地域を軸にした異校種間の学び合い

【地域の教育機関に広げた学び合い】（異校種・市教委）

ある高校では「学校間の連携による一貫した支援体制の構築モデル研究」をテーマに、講義・ワークショップ型ロールプレイングを実施しました。高校教諭、市教育委員会、市内中学校管理職、市内小・中学校教員が参加しました。市の教育機関全体に広げての研修会です。学校間連携コーディネーターがキーパーソンになって、各機関をつなぎ、児童生徒の情報共有・個別の支援体制構築に効果的な話し合いとなりました。

◎ポイント：キーパーソンを軸に地域内の教育機関同士での学び合い

枠を超えた学び合い

学校には、様々な心理的壁があります。それは、学び合いの阻害要因になってきました。その壁を乗り越える試みが教員の孤立化を防ぎ、風通しのよい職場を作ります。ここでは、その事例を紹介します。

【学科間の共通認識を図る学び合い】

複数学科併設校においては、学科間の交流がおろそかになる場合があります。また、評価などの教育活動にも、違いが出てしまう場合もあります。ある複数学科併設校では、「教科指導と評価評定」の学科間の基準について研修会が行われました。大学教授を招いて、新学習指導要領での評価の動向を整理したのも効果的でした。このような試みの継続が学科を超えた共通認識を育んでいくはずです。

◎ポイント：研修会で学科間の共通認識を育む

【学科の枠を超えた学び合い】

ある複数学科併設校では、学科横断的に、特別支援教育の視点を取り入れた研修会を行い、生徒の情報を共有しています。その結果、個に応じた指導をする意識が高まり、普段から話題となることが増え、学科を超えた補習や行事が行われるようになりました。生徒も先生全員が気に掛けてくれているという意識がでてきたということです。学科横断的な研修会での学び合いが、教職員と生徒両方の意識の変容を生んでいる好例です。

◎ポイント：研修会での学び合いで、意識の変容を促す

研修のフィードバック

貴重な時間を割いて研修会を実施したのですから、何かしらの成果や結論を得たいものです。ここでは、研修成果のフィードバックについて考えます。

【支え合う関係の構築】

風通しのよい職場づくりを進める目的の一つは、教職員の心理的なケアです。それを目的とする場合、あえて成果や結論を出す必要はありません。むしろ、成果を求めることが、自由な議論を妨げたり、発言を躊躇させたりします。ある学校では、研修会の後も先生方が残って話し込む場面が増えたことが、成果として浮かんできました。これは、助け合い、学び合う風土の醸成に向けた大きな一歩です。

また、ある高校では、学力向上について話し合ったところ、自然と「生徒の意欲」と「学校のグランドデザイン」に皆の議論が集約されていきました。このように、自然と話し合いが集約されていくこともあります。

◎ポイント：あえて結論を求めず、自然に任せて心理的接近をはかる

【システム化・体系化】

ある高校では、授業力向上について、生徒一人一人の支援を取り入れた授業改善の研修会を、年3回の計画で実施しています。1回目は、事例に基づいた課題の共有、2回目は、課題把握のための授業観察・研究、3回目はそれを踏まえた課題解決のための協議・意見交換という構成です。該当委員会が担当し、体系的に計画されていて、結果が次の研修会に生かされています。これは、システム化・体系化された好例で、教職員も直接的な成果を得やすいでしょう。

◎ポイント：システム化・体系化によりフィードバックしやすい仕組みを作る

おわりに

■「主体的・対話的で深い学び」は、生徒のみならず、教職員にも求められています。教職員が学び合う土壌がある学校では、生徒も学力を伸ばしていくはずですが、そして、「教職員の学び合い」は、学校にとどまらず、学校間にも広がりを見せています。

■今年度の訪問では、教職員のいきいきと話す姿が印象的でした。パリのカフェで、芸術家たちが一杯のエスプレッソでくつろぐような自由な雰囲気、参加者の積極的な対話を促します。飲み物を片手に、肩肘張らずに話し合う研修会も多くありました。

■ある研修会で、「ベテラン教員も悩んでいる」旨の発言があり、印象に残っています。皆、悩みながら教育活動を続けていると思います。また、「昔は、職員室で残っていろいろ話し込んだ」という声も聞こえてきます。ここで紹介した事例を、日々の学校を開放的で知的な空間にするヒントとして役立てていただければ幸いです。